

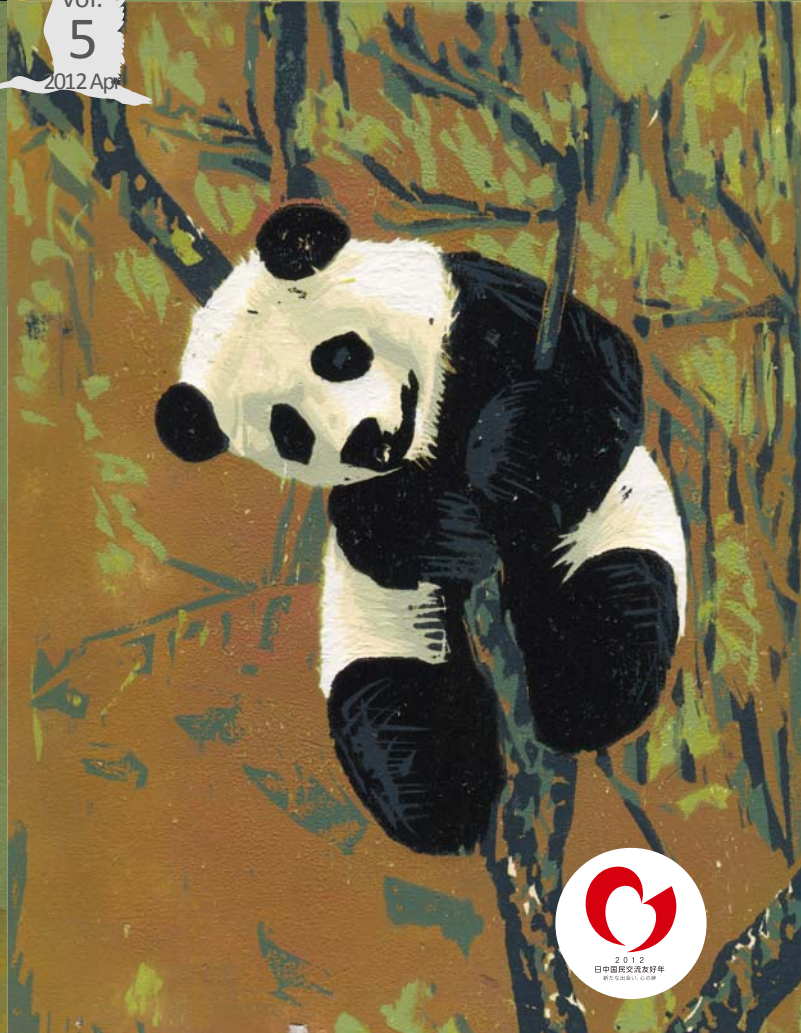
人とトキが共生する豊かな地域環境をめざして



ひとも トキも



vol.
5
2012 Apr



人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト



SPECIAL REPORT

- 08 洋県トキ絵画コンクール
受賞作品紹介



- 10 Pickup/
環境教育モデル教科書
董寨の鳥下敷き
トキのデコイ



ACTIVITY REPORT

- 03 野生トキ観察エコツアーの試行
陝西省珍希野生動物救護飼育研究センター
浙江省トキ繁育基地
- 04 運営指導調査が行われました
有機農業技術マニュアルを作成
- 05 寧陝小学校トキ保護宣誓式
董寨生物調査
- 06 プロジェクト関係者紹介
- 07 人とトキのものがたり
- 10 新コーナー「秦嶺の自然ギャラリー」
- 11 定例会を開催しました
孵卵器・育雛器
モニタリング用バイク供与
XI'AN COOL
- 12 洋県トキ絵画コンクール受賞作文紹介

Wetlands International との 連携を開始します

Wetlands International「国際湿地保全連合」とは、湿地と湿地の生物多様性の持続可能な管理と回復を目的としている国際NGOです。
プロジェクトの目標とも関連があることから、今後相互の活動情報の共有等を行っていくことにしました。連携の第1弾として、Wetlands International 発行のニュースレターに当プロジェクトの活動が紹介される予定です。

今年、2012年は日中国交回復40周年という記念すべき年です。40周年を記念し、当プロジェクトの四季報でも表紙にロゴを掲載することにしました。

プロジェクトでは西安市内の大学にて記念講演を行ったり、秋頃には記念放鳥式典等、40周年関連事業を実施していく予定です。



Cover Story



第5号の表紙は「秦嶺四宝」。秦嶺山脈に生息するトキ、パンダ、キンシコウ（金糸猴；孫悟空のモデルになったとも言われるサル）、およびターキン（ウシ科の大型草食動物）の希少動物4種は、秦嶺山脈の宝として豊かな自然を有していることを象徴しています。

木版画で刷られた秦嶺四宝の作者は、曹煜さん。西安美術大学を卒業し、今年3月までプロジェクトの現地スタッフとして大いに活躍しました。力強さの中にも繊細さをあわせ持つこの木版画には、彼の人柄がよく表れているといえるかもしれません。



四季報のタイトル「人もトキも」には、「人」とトキに象徴される「自然」の持続可能な共生関係をプロジェクト活動にて実現したいという思いが込められています。この度、中国語版「人と朱鷺」の題字を陝西省林業庁白永慶庁長より揮毫していただきました。





洋県はトキをシンボルとした生態観光を推進していますが、現状は飼育場の参観が主体です。野生のトキを見る機会を提供することは、トキ保護への関心や理解を高め、地域の経済的なメリットにもつながります。

このため、試行的な取組みとして、2011年12月17-18日(土・日)の両日、洋県へのトキ観察ツアーを実施しました。対象を西安在住邦人とし、日本人クラブの協力で、企業駐在員、大学教授など20名あまりの皆さんにご参加いただきました。

ツアーは、秦嶺山脈をぬけて洋県に入り、紙の発明者蔡倫の墓やトキ飼養場を参観したあと、日没前に漢江の南にある貯水池に到着、ねぐらに帰ってくるトキの様子を観察しました。繁殖期前の12月上旬は群れが分散し始める時期ですが、今回は80余羽を確認、次々と編隊を組んで帰ってくるトキの姿に参加者も大感激でした。

今後、こうしたツアーの取組みを継続し、中方を含めより多くの人々にトキの魅力を知ってもらう機会にしたいと考えています。



エコツアーでも訪れた楼観台を含め、中国国内のトキ飼育施設をご紹介します



陝西省珍希野生動物
救護飼育研究
センター(楼観台)

西安市の中心部から南西に約60km、周至県にあるこのセンターはパンダ、トキ、キンシコウ、およびターキンの「秦嶺四宝」をはじめとした希少動物の重要保護動物の収容、救護、および保護を行う施設で、繁殖研究や宣伝教育活動も行われています。パンダの国内4大繁殖期地の一つであり、保護された個体を含め22頭が飼育されているほか、キンシコウやターキンなどの希少動物の収容数も中国最大となっています。トキは2002年に60羽で飼育が開始され、2011年12月時点では255羽に達し、中国最大の飼育個体数となっています。



浙江省トキ繁育基地

浙江省徳清県の繁育基地は2008年、下渚湖国家湿地公園の中に開設されました。左記の陝西省珍希野生動物救護飼育研究センターより導入した10羽から繁殖の取組みを開始し、2009年11月には佐渡から返還された10羽が加わり、2011年10月時点で64羽が飼育されています。周囲には大きな湿地が広がり、サギ類をはじめとした多くの鳥類が確認されている場所でもあります。湿地公園は上海や杭州からも近いため年間18万人の観光客が訪れるとのことで、飼育されているトキも注目されているそうです。なお、2011年12月に佐渡から返還された8羽も新たに加わっています。

(2011年10月14日に浙江大学の葛云法先生にご案内いただき、全国鳥類バンディングセンターの陸主任とともに視察しました。)



プロジェクト作成のリュックを背負った子どもたちは元気いっぱい（市田委員撮影）



運営指導調査が行われました

2月20日より運営指導調査が行われました。調査団のメンバーは JICA 地球環境部で、本プロジェクト担当の鈴木さん、訪日研修でお世話になった環境省佐渡自然保護官事務所の長田首席保護官、バードライフインターナショナルの顧問であり、プロジェクトを日本国内から技術面で支援して下さる国内支援委員会の市田委員の3名です。北京にてカウンターパートの全国鳥類バンディングセンターや JICA 中国事務所を訪問後、西安では陝西省林業庁の白庁長と意見交換し、JICA 専門家と面

談。現地サイトの洋県では曹県長および自然保護区の丁局長とプロジェクト活動についてレビューを行いました。洋県では小学校を訪問する機会を得ることができ、子供たちが嬉しそうにプロジェクトの絵画コンクールの参加賞として配布したランドセルを使っている様子も確認されました。調査団からはプロジェクト活動への貴重な提言がなされました。今年は運営指導調査での提言を実現するべく、専門家チーム皆で、取り組みたいと思います。

有機農業技術マニュアルを作成

トキ生息地に住む農民の生計向上を目的として、寧陝県、洋県、および羅山県でそれぞれ有機農業技術研修会を開催しました。研修会では、専門家が講義するだけでなく、実地での技術も行いました。農民の要望により、研修会の資料を教材として編集、クリ編と猪苓（チョレイマイタケ）編の2種類を作成

し、寧陝県寨溝村の研修会では住民に大変喜ばれました。さらに、寧陝県林業局と寧陝県薬材・食用菌発展事務所より、教材を提供してほしいという要望を受け、500冊を寨溝村の住民に配布、2500冊を寧陝県林業局と寧陝県薬材・食用菌発展事務所に贈呈しました。



董寨生物調査

董寨自然保護区にて、自然環境調査の一環である餌生物の調査を行いました。今回は、5月と9月に引き続き3回目の調査で、2月13日より1週間、全国鳥類バンディングセンターの劉冬平氏および董寨自然保護区の職員らとともに、

米田・中島両専門家が、河川や湿田で魚類や水生生物などの餌生物を採取しました。得られるデータは自然環境の基本的な情報であり、生息環境としての評価を行うことが可能になります。



寧陝小学校トキ保護宣誓式

トキ保護と環境保全を誓った後はトキの〇×クイズにみんな大興奮

3月2日、環境教育モデル校である寧陝小学校で環境保全をテーマとしたトキ保護宣誓式が行われました。5年生300名はまず小学校周辺の清掃活動を行い、5年生代表の生徒からトキ保護の必要性、環境保護の重要性についてのスピーチがあり、みんな熱心に聞いていました。スピーチが終わると、「トキ保護」と書かれた横断幕に生徒300人が1人ずつそれぞれ署名をし、トキ保護の大切さをみんなで誓い合いました。

式の最後に、平野専門家と通訳兼アシスタントの小池さんが〇×クイズを企画。JICAやトキのことについて楽しく学んでもらおうと出題されたクイズに、生徒はみんな大興奮で、いつの間にか2人は小学生に囲まれたほど。クイズが終わっても「また寧陝小学校に来てね!」と大勢が周りをとり囲み、帰り際にはサインを求めて行列ができるなど、まるで有名人かのような光景でした。当日出題された〇×クイズ10問、あなたは何問正解できるかな?

寧陝小学校トキ〇×クイズ

- トキは現在、日本、中国、韓国、そしてロシアに生息している
- トキの数は現在2000羽である
- いま飛んでいるときはすべて洋産のトキである
- 今年の日中国交回復50周年の年である
- 日本と中国はトキについて長年の交流の歴史がある
- 寧陝県では飼育されているトキが40羽、野外は40羽
- JICAとは日本政府の援助機関である
- トキは絶滅したとされていた
- 昔はトキと人は仲良く暮らしていた
- 寧陝小学校の子供はトキとなかよく暮らす将来を望んでいる

正解はこのページ左側下部をご覧ください



寧陝小学校の5年生300人が参加したトキ保護宣誓式





プロジェクト関係者紹介

陝西漢中トキ国家級自然保護区管理局 局長

丁海華

それは1983年初夏のことでした。『漢中日報』で偶然トキについての文章と写真を目にする機会がありました。このような大変珍しく絶滅寸前の種がいて、「世にも珍しい宝」、「東方の宝石」といった美称がつけられていることを初めて知りました。その後、1995年にある公務での接待で、私はようやくトキ救護飼養センターで本物のトキを見ることができました。トキのあのような美しさゆえに、私はその時寄付金箱に5元を入れたことを覚えています。当時の給料は100元ほどでしたが、これが私のトキへの初お目見えの贈り物であったと言

に、国家級自然保護区の設立前で、国の多くの投資や国際機関のプロジェクトを獲得することができませんでした。このため私は野生トキの保護に力を入れ、飼育個体群の規模を強固なものとし、群れの質を高め、野生トキ生息地環境の回復・管理を強化するとともに、国家級自然保護区申請を急ぎ、複数のルートから保護経費を獲得することを自身の仕事の第一任期目標としました。2004年末にトキ生息地生態保護・回復プロジェクトが完了し、合計580ムー（約39ha）の冬季湛水田を整備・維持し、1,250ムー（約83ha）の湿地と

鳥を実施し、合計24羽のトキを放し、うち16羽が生き残りました。このうち1ペアは翌年にペアリングして2羽の幼鳥が生まれました。このことは、試験放鳥が無事成功したことを意味しています。2005年に国務院がトキ国家級自然保護区の設立を許可し、トキやその生息地の保護が、ようやく国の法律保護を受けられるものとなりました。具体的には、保護区のインフラ整備が中央の投資予算に組み込まれたこと、トキ生息地内の一部の生産活動が法的規制を受けるようになったことなどで、地域との軋轢も減少しました。

2011年には、野生トキの繁殖成育幼鳥数が3年連続で200羽を超え、野外で確認されている個体数は760羽に達しました。分布範囲は3,000平方kmに拡大し、国内外に8つの人工飼育個体群が形成されました。生息地の環境も確実に保護されました。5つの保護ステーションと2つの観測拠点が設立され、設備は改善されました。95%のトキは私たちの保護区で生息し、トキの絶滅危惧状況はおおむね緩和されました。

2010年9月には、JICA日中トキプロジェクトが開始されました。これはトキ保護事業をより一層大きく促進するもので、非常に著しい成果を上げています。この場をお借りして、私はすべてのトキを愛する人々代表し、日本政府と民間組織の30年に渡るトキ保護へのご支援に対し、心から感謝を申し上げます！あなた方のお力添えがあつてこそ、トキの今日があるといえるでしょう。

トキへの思い

私はトキを愛し、それ以上にトキ保護という光栄かつ神聖な仕事を愛しています

えます。

2002年8月に、私は長青国家級保護区からトキ保護ステーションへ転勤になりました。私がこの「世にも珍しい宝」との切れない縁を結ぶことになったのは、この時からです。当時、トキの総数はまだ400羽余りで、このうち野生個体群は200羽に満たず、依然として極度の絶滅危惧状況にありました。しかも冬季湛水田の面積が縮小し、トキが採食する川は砂利採取や砂金採りで大きく破壊され、魚の捕獲や毒物の投入などの行為もトキに深刻な脅威を与えていました。これに加え、保護経費の不足、インフラの立ち遅れ、保護設備の老朽化といった、保護事業の取り組みを制約する問題がありました。さら

4,000ムー（約267ha）の植生を回復させ、12kmの用水路を整備し、15カ所のねぐらを保護しました。こうして生息地の悪化を抑止し、野生トキの餌不足の問題をほぼ解決しました。同時に野生トキの繁殖数は初めて100羽を突破しました（実際には124羽）。しかし、この年の3月に中国と周辺国で鳥インフルエンザが発生し、最も近い発生場所から300kmも離れていなかったため、私たちはわずか2日間で164羽の人工トキを80km離れた秦嶺山中に移転させ、隔離飼育しました。鳥インフルエンザが終息して半年後にようやくトキを戻しました。また同年6月には、全国鳥類バンディングセンターと協力して、華陽で初の人工飼育トキの試験放

人とトキのものがたり

環境省佐渡自然保護官事務所 首席保護官

長田 啓

1995年環境庁(当時)入庁、十和田や那覇、釧路にて国立公園の保護管理、生物多様性関連業務等の担当を経て、2010年6月より現職。



現在のお仕事とこれまでのご経歴は

トキの野生復帰の佐渡の現場で飼育、モニタリング等全体をとりまとめる仕事をしています。

これまでの仕事は環境省にて自然保護を担当する公務員として、東京と地方の勤務を繰り返しております。仕事としては国立公園管理の仕事や、生物多様性の計画づくりの仕事をしてきました。

トキに関わるお仕事で一番困ったこと、苦労されたことは?

特に「これが一番」ということはありませんが、生き物を相手にしているので予想外のことが生じることがよくあり、その小さなことを一つずつ対応しています。私が赴任する直前には、順化ケージで訓練中のトキがケージに入り込んだテンにより1晩で9羽殺された事件がありました。その時は現場の職員はたいへんな苦労をしました。

現在の佐渡のトキの状況は?

今まで78羽放鳥し、40羽以上が島内にて確認されています。一昨年、昨年と産卵から抱卵まで確認されました。今年はペアがさらに増えることが予想され、孵化が期待されています。

佐渡の人にとってトキはどんな存在ですか?

難しい質問です。昔のイメージで稲を踏み荒らす害鳥という人もいれば、トキ自体が身近な存在でなかった人もいます。しかし、今は佐渡島のシンボルとなっています。

最後のトキ、キンについて

キンは非常に長寿なトキで、2003年36歳まで生きました。晩年は繁殖能力を失っていました。中国から洋友・友友のペアが佐渡に贈られたのは、1999年です。もし、キンが長生きしていなければ、中国からペアが贈られることもなかったかもしれません。

今年は日中国交回復40周年です

トキは日中友好のシンボルです。昨年は中国洋県でのトキ再発見30周年でしたが、日本での野生のトキの全鳥捕獲からも30年でした。30年前の佐渡での野生のトキの全鳥捕獲によって世界中の野生のトキは全滅したと考えられていましたが、その4ヵ月後に中国で発見されたのです。

人とトキの関係についての、中国で視察をされた感想は?

中国のトキは野生のトキが人に近いところでいて、人が近づいても逃げません。日本では中国からいただいたトキの子孫を怪我させないように、無事に放鳥するため慎重に扱っています。日本のトキは臆病で繊細。良い面、悪い面の両方があります。

日本のトキ保護へのヒントは?

中国ではすでに長い経験があるため、例えばかつて給餌を行った時の判断基準の考え方や、同じ巣を続けて使うか等、現地で収集した生の情報は日本での野生復帰にとって参考になります。

中国のトキ保護に活かせる日本の経験は?

そのまま日本の社会状況が中国では当てはまらないかもしれませんが、日本では放鳥の前後に地域の住民を対象に座談会を何回も開催しています。中国でもこれからトキの分布が広がるにつれて、守られている保護区以外の場所では日本で行っているようなさまざまな合意形成のプロセスや認証米などの工夫が参考になるのかもしれない。

プロジェクトへの要望や期待は?

JICA専門家として日本人が中国に入り活動していく中で、各地域、大学、中国側専門家、政府機関といろんな人が主体的な関わりながら新しいものの動かし方、合意形成ができるようになるといいですね。

トキに関わる全体にとって利益になるように、プロジェクトの力が活かされればいいと思います。

また、「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」の存在は我々にとっても刺激になっており、お互いに成果・メリットがあると思います。

最後に何かコメントを


佐渡はとてもよいところです。中国のプロジェクト関係者も、これまで来られた際に大変喜んでいただきました。魚もおいしいですし、ぜひお越しください!

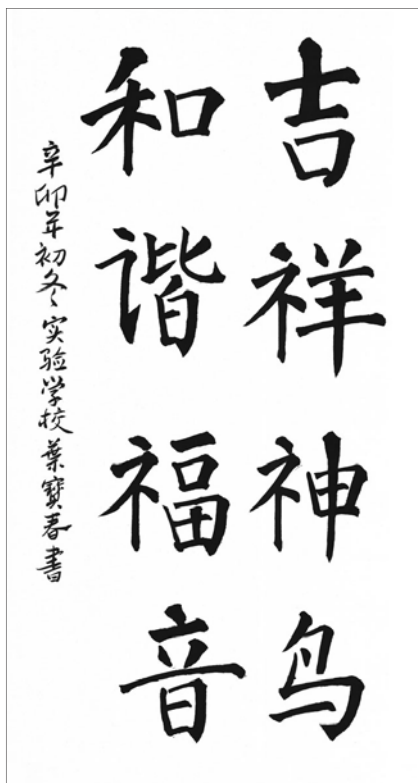
洋県トキ絵画・書道・作文 コンクール入選作品


150名もの小学生から力作が集まり、トキへの想いが伝わってきたコンクール

前号と2回にわたり、2011年11月に行われたコンクールの絵画と書道の受賞作品を紹介しています。

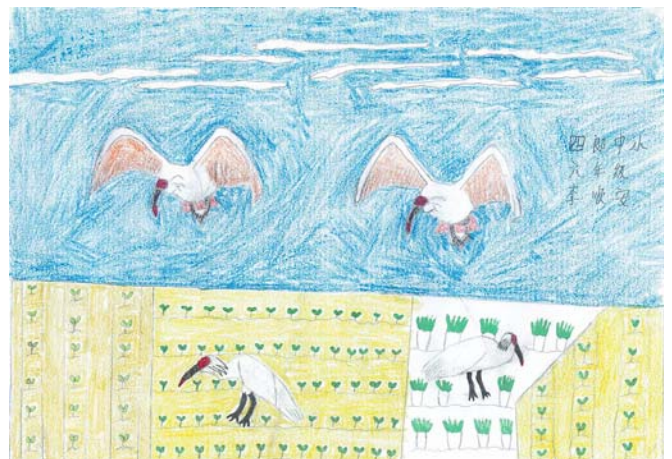
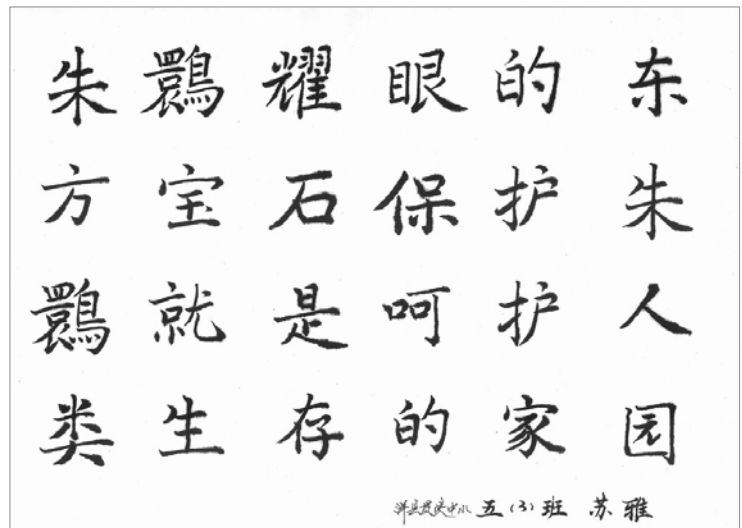


2等賞 
武萌さん
(实验学校)



2等賞 
叶宝春さん
(实验学校)

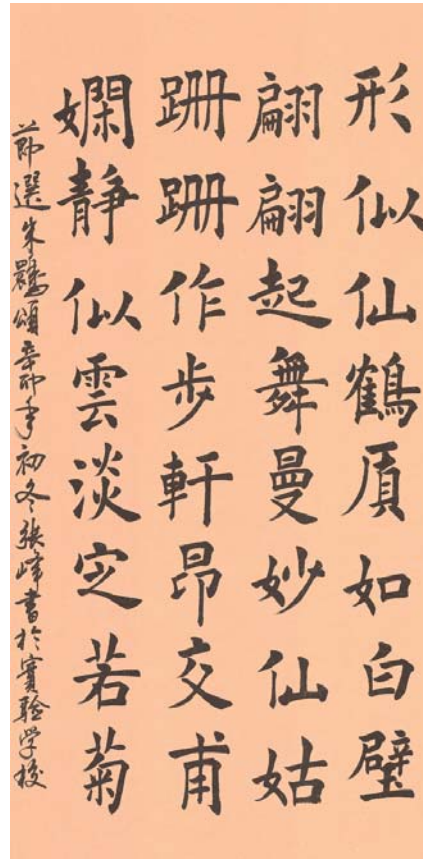
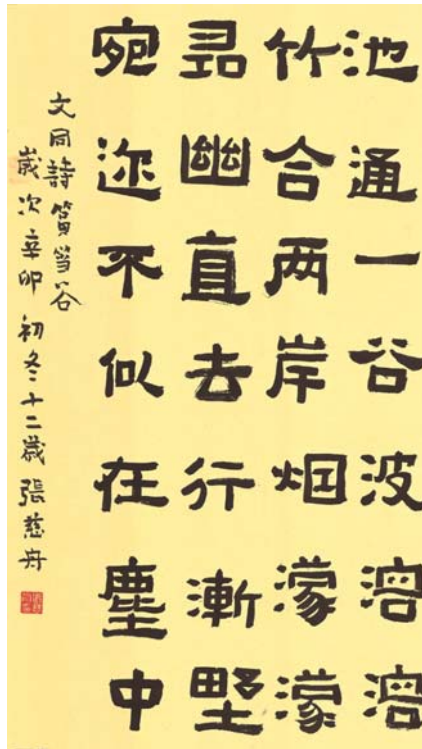
2等賞 
苏雅さん (贯溪中心小学)



2等賞 
李顺安さん (四郎小学校)

3等賞

张慈舟さん(青年路学校)



3等賞

张峰さん(实验学校)



3等賞

王羿衡さん(南街小学)



3等賞

鲁尧さん(青年路小学校)



3等賞

张云开さん(南街小学校)



3等賞

李瑶さん(九里岗小学校)

董寨国家級自然保護区は、世界的にみても貴重な鳥が多く生息する、鳥の宝箱ともいえるような場所です。国家二級重点動物のオナガキジや、その名のとおり8つの色を持つヤイロチョウ（八色鳥）、日本でも親しまれているコウノトリの記録もあります。

プロジェクトでは、主に小学生を対象にした環境教育用のモデル教科書を作成しました。全国鳥類バンディングセンターの陸軍主任に監修していただき、保護区から提供された資料のもと米田専門家の指導を受け、小池真実さんが西安美術大学で学んだ国絵の技法を生かして絵を描き、日中双方が協力して完成しました。子供たちが親しみやすいよう漫画やイラスト付きのコラムを入れたり、その他にもたくさんの鳥のことが楽しく学べるようになっています。野鳥が多くなる春から初夏には、董寨の小学校に配布し、バードウォッチングを実施する予定です。董寨の子供たちが地元の貴重な自然への理解を深めることが期待されます。



環境教育モデル教科書



プロジェクト国内支援委員会の提言を受け、モデル教科書「董寨の鳥」に登場する鳥の下敷きを作製しました。子供たちが鳥の名前や形を楽しく覚えられるように、裏面は表に描かれた鳥のシルエットになっており、友達同士で当

秦嶺の自然ギャラリー

Vol.1 カワウソ

日本では昔は北海道から九州まで幅広く生息していたカワウソ。残念なことにその良質な毛皮を目的とした乱獲のため、高知県での1979年の目撃例を最後に絶滅したと考えられています。しかし、ここ陝西省の秦嶺山脈ではカワウソが生息しており、中国における国家二級重点保護動物として大切に保護されています。カワウソもトキと同じように、魚やカエル等水辺の生き物を食

べています。秦嶺山脈にはパンダ、ターキン、キンシコウと国家一級重点保護動物も生息しており、豊かな生物多様性を有する世界でも重要な生物多様性ホットスポットです。

日本ではカワウソはカッパのモデルともされており、最近、日本でのカッパの目撃もなくなっているのは、カワウソが絶滅したのとの関係があるかもしれません…



Project 2012.3.17

-1-05

このコーナーでは、小池真実さんの絵とともに現地サイトに生息する希少動物などトキだけではない魅力を紹介していきます！プロジェクトではトキに象徴される人と調和のとれた生態系保全を目標にしています。



トキのデコイ

環境教育の教材として作成したトキのデコイ（実物大の模型）。米田専門家および中島専門家のアドバイスを元に、西安の模型制作会社が試行錯誤を重ねて制作しました。今後、現地サイトの小学校を巡回するほか、西安の専門家執務室でも常設展示をし、訪問する皆さまにトキの本物そっくりのデコイを前に生態等解説をすることができます。

『董寨の鳥』下敷き

てあいつこをしたりするなどして興味を持ってもらえるような工夫を凝らしています。この下敷きは、西安美術大学を卒業した現地スタッフの劉玉卓さんを中心に作成しました。

定例会開催

1月10日に定例会が陝西省林業庁にて開催されました。現地サイトの洋県、寧陝県、そして遠く河南省からの関係者も集まり、第4四半期の活動を日中双方で協議し、第3四半期の活動のレビューを行いました。協議では、今後プロジェクトと中国側関係機関がより一層緊密に連絡を取り合うこと、より良い成果がでるように活動していくための方法が数多く提案されました。



孵卵器・育雛器を供与

プロジェクト現地サイトの寧陝県および董寨自然保護区に孵卵器と育雛器をそれぞれ供与しました。米田専門家の現地調査により、董寨自然保護区でこれまで使ってきた孵卵器は、満遍なく温まるように卵を時々回転させる「転卵」がうまくいかず、職員が昼も夜も24時間付きっきりで、手で卵を回していることが判明しました。日本にはトキ専用の孵卵器と育雛器があることから、財団法人・日本国際協力システムの協力のもと、本邦調達にて機材を調達しました。さっそく、今シーズンの繁殖期から活躍が期待されています。

環境教育モデル教科書のイラストも手掛けた、西安在住の青木さんによるトキをテーマにした4コマ漫画。



モニタリング用バイク供与

プロジェクト現地サイトの董寨自然保護区では、今後トキの放鳥が予定されています。中国では陝西省以外で初となるトキ野生復帰の取り組みは注目されており、放鳥後のモニタリングも重要になってきます。洋県や寧陝県で巡視やモニタリングには主にバイクが使用されており、今回は董寨でのモニタリング体制の構築に向け、7台のバイクを供与しました。



洋県トキ絵画・書道・作文コンクール
作文二等賞作品紹介

トキ姉さん—愛しています

朱鷺姐姐-我爱我家

槐樹関鎮白路完全小学校6年 李昊政

全身の雪のように白い羽、素早く軽快に動く二枚の翼、まんまるの二つの眼、円筒状で湾曲した嘴、少したくましい二本の脚、朱色の爪、そして豊満なお腹、これが「東方の宝石」のトキ姉さんの美しい体です。

トキ姉さんは貴重な鳥で、四大国宝の一つで、私の国ではすでに絶滅に瀕しています。だからトキを保護することは、誰にでも責任のあることです。トキは益鳥で、害虫を捕まえ、畑を守る達人です。農民のおじさんのよい助手でもあります。トキの繁殖は遅く、一年に三、四個しか卵を産みません。しかも卵が全部かえるとは限りません。トキ姉さんは私たちに助けを求めているのです。「人間の皆さん、これ以上私たちを殺さないでください！」

トキ姉さんは人情も義理もある留鳥です。トキ姉さんは冬でも夏でも、自分の「すみか」で過ごします。トキの巣は普通は樹の枝の又のところに作られ、トキの赤ちゃんが生まれると、お母さんは労をいとわず、飲み込んだドジョウなどどこなれた食べ物を吐き出して、赤ちゃんの嘴をお母さんの喉に入れて食べさせます。子どものトキは成長すると、自分でおいしい食べ物を探し、お母さんに食べさせます。これが人々の言う羊羔有跪乳之情、烏鴉有反哺之恩(訳注:子ヒツジは跪いて乳を飲んで情に報い、子ガラスは成長して親鳥に餌を食へさせ恩に報いる)です。

トキは人類のよい友達であり、農民のおじさんのよい助手であり、私たちが子どもの「お客様」です。私たちはトキの故郷の人々として誇らしく、光栄に思っています。トキ姉さん、永遠に美しいままでいてください。私たちと永遠に仲良くしてください。そして「東方の宝石」であるあなたには、私の故郷で永遠に暮らしてほしいと思います。あなたは永遠に人類のよい友達です!

翻訳:李春燕

「ジャパンジャーナル」に
掲載されました

2月発売のジャパンジャーナル『The Japan Journal』にプロジェクト活動が紹介されました。英文・中文で内閣府より発行される月刊誌「ジャパンジャーナル」は世界各国の政府機関や大学、大使館、図書館等に送付されており、世界に向けてプロジェクトをPRすることができました。

NHK「ほっとアジア」に
出演します

NHK・BS1で放送されている国際情報番組「ほっとアジア」にて西安の天気や、特産品等を2カ月に1回程度、平野専門家が紹介することになりました。「ほっとアジア」は月曜～金曜の午後5時から放送されています。第1回目は4月17日放送予定。ぜひご覧ください。

人とトキが共生できる
地域環境づくりプロジェクト

〒710082

西安市蓮湖区労働南路296号民航大厦14F

TEL/FAX: +86-(0)29-88793312

http://www.jica.go.jp/project/china/004

本誌「ひととトキも」に関する皆さまのご意見、ご感想をお聞かせください。

✉ toki.jica@hotmail.co.jp

トキ情報コーナーのご案内

西安事務室にはトキに関する情報を提供する「トキ情報コーナー」を設置しています。訪問されたい方は事前にご連絡ください。興味ある方のお越しをお待ちしております。

● 9:00 ~ 17:00

■ 土曜・日曜・中国の祝日を除く毎日

お断り

本誌は、プロジェクトの近況や情報を率直に読者に伝えることを目的としており、国際協力機構(JICA)の意見を代表するものではありません。